

九州工業大学 季刊

九工大通信

Kyushu Institute of Technology

vol.18

2003.10.1

Autumn

新学長インタビュー

九工大の21世紀ビジョン 「知と文化の情報発信拠点」に

九州工業大学 下村 輝夫 新学長

研究最前線

平衡状態図を用いた エコステールの合金設計

工学部 物質工学科 大谷 博司 助教授

産学連携

プロアクティブメンテナンス (TAKADA) 講座

生命体工学研究科 寄附講座
「プロアクティブメンテナンス(TAKADA)講座」
安西 敏雄 客員教授

生命体工学研究科 寄附講座
「プロアクティブメンテナンス(TAKADA)講座」
中野 光一 客員助教授

大学の目指すもの

工学研究科に独立専攻 「機能システム創成工学専攻」が誕生!

大学院工学研究科 機能システム創成工学専攻長 近浦 吉則 教授

サークル紹介

工大祭実行委員会 サッカー部

お知らせ

▲「平衡状態図を用いたエコステールの合金設計」からのイメージイラスト（「研究最前線」参照）



九工大の21世紀ビジョン

「知と文化の情報発信拠点」に

大学を「経営」する

国立大学は2004年度から独立行政法人になり、生き残り競争の時代を迎えます。新学長として、独立行政法人「九工大」を軌道に乗せることが最大の課題になると思います。どのような戦略をお考えでしょうか。

下村 経営の観点から見れば、大学法人化において一番大切な課題は財務の健全性にあります。現在の国立大学最大の収入源は、国立学校特別会計を含む一般会計からの繰入金であり、法人化後は、施設設備費として支出される分を除いた一般会計からの繰入金の大部分が運営費交付金として交付されます。収入源としては、学生からの授業料、産学連携等研究費、科学研究費補助金、通称科研究費などです。一方、支出の項目は人件費、物件費の二つに分かれ、教官の研究費は物件費に依存します。運営費交付金については、状況によって厳しくなると予想されます。ですから、受託研究や共同研究を含む産学連携費と科研究費補助金など、研究による外部資金の増額

を目指したいと考えています。また、知的財産つまり特許の活用や社会人の再教育などによっても外部資金の導入を図り、さらには国の重点4領域のライフサイエンス、環境、情報通信、ナノ・テクノロジーにかかわるテーマを絞り込み、最終目標を明確にして民間資金の導入を図りたいと思います。その際は橋渡しの役割を果たす産業界や官界からのスタツフも必要でしょう。また、一部の外部からの獲得研究費にオーバーヘッドと呼ばれる間接経費制度が導入され、共通経費が上乘せられるので、その獲得増加を目指すシステムの構築も考えています。支出面でも見直しを行い、節約できるところは早急に節約し、人件費の抑制も検討したいと思っています。この場合、教職員の活力と意欲を損わないよう注意したいと思っています。

——大学経営のお話が出ましたが、法人化によって授業料も自由に設定できるようになります。世間の関心も高いですが、どのように変化するのででしょうか。

下村 授業料は一定ラインが決まっていますので、そのラインからプラスマイナス10%以内で各法人が考えることになり、急激な変化は避けられるでしょう。本学の場合、基本は従来通り。安易な値上げはしたくありません。そして私個人としては、特に優秀な学生には授業料を免除するという方法も考えています。

——九工大は「工学部・工学研究



略歴
九州工業大学
Shimomura Teruo
下村 輝夫 新学長
昭和20年生まれ。

九州工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻修了。工学博士。専攻は画像工学、画像計測。

九工大は「工学部・工学研究科」「情報工学部情報工学研究科」「生命体工学研究科」という3つの部局に分かれ、キャンパスも3カ所に分散しています。部局間連携をどのように進めようとお考えですか。

下村 高等教育機関である大学の3軸は、教育、研究、社会貢献です。これは共通使命で、問題は各大学がどのような固有の特色を打ち出せ

るかです。本学の目指すべき方向は「技術に堪能なる土君子」の養成という創立の理念に代表されるように、世界をリードする高度技術者養成に集約されると言っても過言ではありません。研究も社会貢献もこの点に絞らねばなりません。タックスペイヤーである国民、地域住民の期待、そして保護者の願いもこの点に尽きると思います。これを念頭に、研究面では教官の研究ベクトルの方向性をある程度合わせるよう促し、評価システムを確立して各部局にまたがるプロジェクトを絞り込めば、キャンパスの距離は離れていても連携できるでしょう。教育、及び運営面ではキャンパス間での教官の相互乗り入れを図りたいと思います。大学として共通の認識を持つことは重要。本学ではテレビ会議を行っています。意見が相違したとき、その背景まではなかなかつかめません。ですから、執行部はもちろん各教官も各キャンパスの現場を知っていただきたい。私も理想としては月に1日は他キャンパスに行き、先生方の研究室を訪

COEスチューデント育成

——大学の先駆的研究に予算を重点配分する文部科学省の「21世紀COE(センター・オブ・エクセレンス)卓越した研究拠点プログラム」に九工大の「生物とロボットが織りなす情報工学の世界」が選ばれました。こうした優れた研究は、地方大学が声価を高め、生き残りを図る上で重要な武器になると思います。独創的な研究開発を生み出す基盤づくりについてはどのようにお考えになりますか。

下村 独創的な研究とは、他の追随を許さない、世界で初めての研究内容とその成果です。アイデアは良くても、成果がなければ価値がないとも言えるでしょう。しかし、根幹はアイデアと具体的プロセス。その評価は難しいので、今後は外部有識者の意見を取り入れたいと思います。現代は、研究を個人よりグループで行う時代。ノーベル賞の田中

本学第11代学長に下村輝夫・前工学部長が選出され、10月1日付で就任しました。来年度からの大学独立法人化を控え、各大学が独自性を打ち出そうとする今、下村・新学長は本学創立以来の理念「技術に堪能なる土君子」、世界をリードする高度技術者の養成に力を注ぎ、「知と文化の情報発信拠点」であり続けることを目指すと宣言。部局間、産官の連携や入試制度改革、財務問題など、さまざまな課題を抱える中、今後の展望についてお話を伺いました。(聞き手は溝越明・西日本新聞社論説委員会副委員長)

耕一さんの研究も、小柴昌俊先生の場合もそうですよね。つまり、どれだけ優秀な頭脳を集められるかに事の成否がかかっています。学内のシーズを大切に育て、個々の教官の研究ベクトルの方向性を合わせていけば、グルーピングは可能だと考えます。また、独創的な研究内容ほど当初は非常識とされる場合があります。しかし、粘り強い努力と強烈な課題解決意欲に支えられて実現される場合も多いんです。基礎研究の育成は長いスパンでの考慮が必要。財政面の制約があるにしても、可能性の成否を慎重に評価しながらできる限りの支援を行いたいと思います。独創的な研究を生み出す基盤づくりとは人的資源の有効な集約。最終目標は独創的研究開発を通じた学生の教育です。今回、21世紀COEプログラムに採択された「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」の特色の一つに、COEスチューデントの養成があります。博士課程前期の2年間で半年ごとに4つの研究室を巡り、基本的なソフトとハードを身につけ、モノづくりすべてに携われる学生を養成するというものです。今回の実績を糧に、今後第2、第3のCOEが構築されるように支援していきたいと考えています。

——下村学長は、大牟田市の企業と協力して、太陽光の反射を防ぎ、青、赤、黄の点灯を鮮明に識別でき

る交通信号灯を開発するなど、率先して研究成果の地域貢献を進めていきたいと思います。人材交流や地域活性化などで産官の連携を強化する手立てについて、どう考えていらっしゃいますか。

下村 組織間連携には人材がすべて。共通目標のもと、ときには意見をぶつけ合い譲歩しながら物事は成就していくものです。一つの発想に固執すると必ずしもうまくいきません。私の場合も、信号機の開発の際、最初一つの考えに固執していたな



Interview 新学長インタビュー 下村 輝夫 新学長

かなかうまくいきませんでした。出上来がてみれば非常に簡単な話だったんですがね。やはり、常にいろいろな見方をするのが大切なんです。ですから、連携強化の手立ての一つとして、産官の広い分野から人材を採用し柔軟な発想を求めたいと思います。また、その連携の成果である知的財産の保護も重要な問題。来年度から教官が非公務員となり民間企業との兼業も、ある一定の枠内で認められます。研究を通してその成果を社会に公開し、その経験を学生の教育に資するようなケースを支援する。教官の経験を学生に還元して、学生に研究内容が社会にどう役立つのか理解させることは、極めて意義深いでしょう。本学では「起業家育成塾」を実施していますし、学生ベンチャーには期待しています。

個性豊かな大学を目指す

——大学入試の改革も大きな焦点です。ユニークな人材を発掘するために、入試の選抜方法などどのような知恵を絞っていらっしゃいますか。

下村 学部を選抜試験には、前期後期の個別学力検査、推薦選抜、私費外国人留学生などがあり、大学の選抜試験には推薦選抜、一般選抜があります。試験科目、内容の評価は、8、10年程度はかかると思

います。評価は社会に出てから2、3年程度してからフィードバックするからです。また、入試科目をコロコロ変えるのは受験生にも迷惑。いったん決めたら、最低3年に変えないようにすべきだと思います。現在、各大学が多様な選抜方法を実施していますが、その背景には試験で何を測るのか模索している姿があります。大学側と学生の意識のミスマッチングを防ぐため模索しているとも言えます。完全な脱筆記試験のAO試験のみで入学者の何割かを確保する大学もあります。そのほか、さまざまな方法がありますが、要は、大学がどのような学生を育成しようとしているか、学生がどのような意欲と動機を持って大学に入ろうとしているのか、お互いがよく知るところに尽きます。本学では、例えば推薦選抜は学部では意欲、基礎学力、思考過程とその説明能力を可能な限り把握しようと努めています。実際に約4時間かけて生徒と向かい合ったこともあります。普通の筆記試験ではなかなかできないことです。

また、大学院では自己推薦方法を採用したり、英語能力を重視したりする研究科があるなど、各部署の理念と目標に基づいた方法を実施しています。そして選抜試験と同じように重要なのが入学後のフォロー。バックアップ体制をさらに充実させたいと考えています。入学から卒業、

修了までの教育の質の保証を考慮した選抜方法を、慎重かつ大胆に考えていきたいですね。

——大学の将来構想についてどのようにお考えですか。九工大の21世紀ビジョンをお聞かせください。

下村 新しい転機である国立大学法人化を契機に、さらなる教育・研究の高度化を区り、国民の負託に応えつつ、今後も世界に向けての「知と文化の情報発信拠点」であり続けることを目指します。さらに、知的基盤の充実と活用による次世代産業の創出と育成を目指す地域社会の要請に基づく諸改革を実現し、教育と研究を通じた社会貢献が実現できる個性豊かな大学を目指します。基本的なビジョンの実現に向け4項目を設定したいと思います。まず第1に、共通のキーワードは、環境基盤、情報・IT、生命・バイオと設定し、相互連携と融合による新技術を創成すること。第2に、研究は世界トップレベルの分野を創出すること。第3に、社会貢献は研究を通じた産学連携を基軸とするシステムを構築すること。第4に、教育は研究と社会貢献を礎とし、高度技術者すなわちグローバル・エンジニアを養成することです。そして最終的には、自然と調和し、生命の繁栄をテーマとする21世紀の社会に貢献する大学でありたいと願っています。

平衡状態図を用いた エコスチールの合金設計



Ohtani Hiroshi

工学部 物質工学科 大谷 博司 助教授

地球環境問題に取り組みながら持続可能な工業生産を維持していくことは、21世紀におけるわが国の大きな課題です。地球環境問題には、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、化石燃料や鉱物資源の枯渇などさまざまな要因がありますが、この中でも特に地球温暖化は、その発生源や循環のメカニズムが十分にわかっていないために問題の解決が困難です。この原因の一つとしてCO₂などの温暖化ガスが挙げられていますが、これらは石油や石炭などの化石燃料の大量消費によっても発生しますから、工業製品の製造分野もこの問題に大きな責任を負っていることとなります。たとえばわれわれにとって身近な鉄は、鉄鉱石から酸素を取り除いてつくられますが、そのときの化石燃料の大量消費によるCO₂の発生は避けられません。バージン材を新たに製造することは、地球環境にとっては必ずしも望ましいことばかりではないのです。

鉄鋼材料のリサイクルの難しさ

このような考えから、鉄鋼材料にもアルミニウム缶のようなリサイクル技術の確立が要請されています。しかし鉄鋼材料では、鋼種によって含まれる成分が全く異なります。たとえば、ステンレスにはNiやCr、構造用鉄鋼にはMnやSi、めっき材にはSnやZnが含まれており、また配線などの電気系統からCuやAg、Auなども入ってきます。これらがすべて一緒に「鉄スクラップ」という名前で再溶解されると、溶解では取り除

けないCuやSn、Ni、Asなどの元素が混入してしまいます。これらの元素を含むスクラップは、高温で圧延したり加工したりするときに割れるので、もはや低品位の用途にしか用いることができません。この悪循環を回避するにはスクラップの分別回収が最も望ましいのですが、鉄鋼は価格がきわめて安く、分別回収はその製造原価に見合いません。そのため市中に蓄積されるスクラップの量は年々増加の一途をたどり、数年で年間5000万トン（年間の粗鋼生産量の約半分）にまで達するという試算もあります。

エコスチールの合金設計

そこで組織制御学研究室では、あらゆる用途に用いることができる汎用鉄鋼材料の表面に、高価な合金元素を含む高級鋼を薄く張り合わせたエコスチールの設計に取り組んでいます。これによって少ない資源で必要な機能を獲得し、あわせてリサイクルを容易にしようというわけです。その設計原理について説明します。たとえば図1のように、C濃度の低い鋼(A)と高い鋼(B)を張り合わせて高温で熱処理するとどのようなことが起こるでしょうか。一般に金属元素は原子のサイズが大きすぎて移動しにくいですが、Cなどの小さい元素は材料の中をすばやく拡散するの

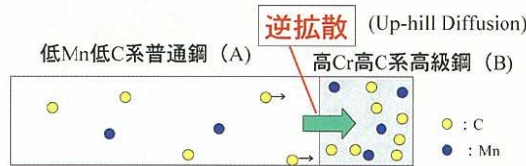


図1 C濃度の異なる鉄鋼を張り合わせたときのC原子の流れ

で、張り合わせた界面を通してC濃度の変化が生じます。このとき、水が高いほうから低いほうへ流れるように、C原子は濃度の高い領域から低い領域へ移動して全体が均一なC濃度になるだろうと考えるのが普通ですが、この例ではそうはならず、逆に濃度の高い側にC原子が拡散するのです。これを逆拡散といいます。このような現象は、鉄鋼(B)に含まれるCrなどがC原子を強く引きつけ、その拡散を阻害しているために起こります。実際にこのようなことが起こるかどうかを、コンピュータシミュレーションで計算した結果が図2です。厚さ45mmのMn-Si系汎用鋼に5mmの18Cr-8Ni系ステンレス鋼を張り合わせて1100Kで加熱してみると、界面を通してC濃度の高い表面のステンレス鋼へC原子が集まってくる様子がわかります。凝集したCはステンレス鋼の内部で炭化物を形成し、これが熱や磨耗、酸化などに対する優れた耐性を与えます。鋼の表面に別な材料を張り合わせるという方法はこれまでも使われてき

ましたが、ここで述べた新しい設計法では、原子の拡散を意識的に制御することで、表面にさまざまな有用な機能を後天的に付加できるという点もとても強調すべき特長です。この方法によって、より少

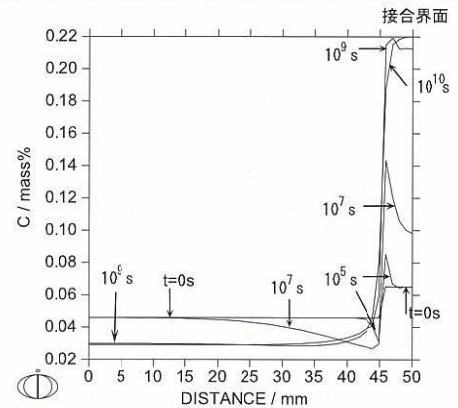


図2 接合界面近傍におけるC濃度の時間変化

ない資源で必要な機能を獲得し、寿命がきたら薄い表面層を削って内部の汎用鋼を再溶解すれば、品位を落とさず、またこのような考え方はC原子に限らず普遍的に適用できるため、たとえばAlを含んだ鉄の周囲にTiやNiなどを接合して拡散処理を施すことにより、加工が困難な超耐熱性金属間化合物や炭窒化物を表面層に生成させるなど、他の材料においても多彩な応用が考えられます。

このような優れた特徴を持つエコスチールも、与えられた組成や温度、圧力などの条件で合金が有する組織を示す平衡状態図がないと合金設計ができません。そこで当研究室では、さまざまな合金が持つエネルギーを数値化し、複雑な状態図を計算で構成しながら、深刻な環境問題の克服の一助となるような新しい材料の開発と設計に取り組んでいます。

「プロアクティブメンテナンス(TAKADA)講座」

生命体工学研究科に(株)高田工業所から寄附講座開設

寄附講座開設のいきさつとその目的
製鉄、化学、石油、ガス、電力および半導体等の各種産業分野における種々の製造プラントは、これらに日夜正常に稼働させることにより、適正な品質の製品が製造され、私たちの生活に役立っています。
ところが、これら現在まで使用されてきた製造プラントは、近い将来スクラップ&ビルドにより新しいプラントを建設するというよりはむしろ、低経済成長下におけるコスト削減のため、まず、プラント設備の資産としての更なる効率化や更なる長寿命化が求められるようになってきています。また、昨今の規制緩和の



生命体工学研究科 寄附講座
「プロアクティブメンテナンス(TAKADA)講座」
Nakano Kouichi
中野 光一 客員助教授



生命体工学研究科 寄附講座
「プロアクティブメンテナンス(TAKADA)講座」
Anzai Toshio
安西 敏雄 客員教授

進展に伴い、これらのプラントに対するメンテナンスは希薄となり、大事故の発生も危惧されるようになってきています。
これらの状況を鑑み、本講座は、従来の予知保全を進化させた劣化防止型保全(プロアクティブメンテナンス)に資する設備診断技術に関連する教育研究を行うことを目的として、(株)高田工業所からの寄附により平成14年5月に設置されました。
プロアクティブメンテナンスとは?
現在の設備管理におけるコスト削減の傾向は、機械摩耗や故障の根本原因 (root causes) に焦点を絞ったメンテナンス・ソリューションを指向しています。このように保全コストを削減するために、設備そのものを劣化させないことが重要であるという考えで、劣化や故障を防止するための事前保全活動を総称して、「プロアクティブメンテナンス (PRM: Proactive Maintenance)」とよみます。これは、端的にいつて劣化防止型保全のことです。しかし、故障の根本原因の多くはその故障形態に隠れることがあります。そして、この故障の根本原因の究明は保全技術者の新しい研究・開発課題となつてきています。
プロアクティブメンテナンスは、従来の保全戦略では達成できなかった

た劇的な保全コストの削減を可能にする保全方式として、世界の保全技術者の注目を浴びています。プロアクティブメンテナンス (PRM) と他の保全方式の比較及び医療行為との対応を表1に示します。

表1.プロアクティブメンテナンスと他の保全方式との比較

保全方式	主要技術	医療行為との対応
プロアクティブ保全PRM (Proactive Maintenance)	故障の根本原因 (failure root cause) 系の監視と修正 (例: 油汚染監視と修正)	コレステロールと血圧を監視し、ダイエットすること。
予知保全PDM (Productive Maintenance)	振動、温度、油中金属摩耗粉、アライメントなどの監視診断	心電図や超音波診断装置により心臓疾患を診断
予防保全PM (Preventive Maintenance)	定期的オーバーホールおよび部品交換	臓器移植やバイパス手術
事後保全BM (Breakdown Maintenance)	多大な生産損失とともに、多大な保全予算が必要	心臓発作が起こってから病院に駆け込む



大学院生によるミスアライメントの異常検出実験の様子

本講座の主な研究・開発テーマ
本講座において実施しようとして
いる主な研究・開発テーマは以下の
とおりです。
(1) 多変量情報理論による回転機械
の状態診断の開発・実用化
(2) Lフィルタによる回転機械の
状態診断方法の実用化研究
(3) 回転機械の整備不良の検出およ
びその修復技術に関する研究
(4) 微生物による材料劣化とモニタ
リング手法の研究
(5) 抗菌性材料の接合部におけるバ
イオフィルム付着に関する研究
(6) 材料劣化に関する評価・診断・
修復技術の開発・実用化
(7) 回転機械の遠隔・オンラインシ
ステムの開発
(8) 傾斜機能材料の応用研究 他
大学院生による回転機シミュレー
タによるミスアライメントの異常検
出実験の様子を左の写真に示します。

工大祭実行委員会



「大学祭、の原風景!!」
実行委員会は、この区画割りや日夜の指導に
てんてこ舞いです

私たち、工大祭実行委員会では、今年で43回目を迎える九州工業大学の学園祭「工大祭」に向けて日々企画の準備を行っています。今年度の工大祭は「九工魂〜No.1よりOnly1〜」というテーマのもと、地域や他大との更なる交流を第一に考え、九工大に來ないと見られない、工大祭にしかない、というような面白い企画を現在考案中です。今年度は、情報工学部では11月14日(金)〜16日(日)、工学部では11月21日(金)〜23日(日)と開催日をずらすことで、来場者の皆さんに2つの工大祭を楽しんでもらえるようにしてみました。

工大祭で行う企画をいくつか紹介させていただきますと、情報工学部では、学園祭のビッグイベントとも言えるプロコンサート「小久保淳平ライブ」、情報工学部の研究内容を公開する「研究展」、元ヤオハングループ会長の和田一夫氏が講演する「e-ZUKA展」、模擬店に關しても、変わったメニューを出している店、地域の方々に出店していただいている「地域ゾーン」などがあります。

工学部では、プロコンサートで「お笑いライブ」を予定しています。また模擬店や、工大生の技術の底力を見せる「ロボットコンテスト」、そして工大祭の夜明けを告げる「前夜祭」、締めくくりとなる「後夜祭」などがあります。もちろん、まだこれらのほかにも面白い企画は多数あります。これらは九州工業大学ならではの両キャンパス共に足を運ぶ価値が十分あると思います。



学科展の一風景
子どもたちが不思議な世界を覗いています

「研究展」、元ヤオハングループ会長の和田一夫氏が講演する「e-ZUKA展」、模擬店に關しても、変わったメニューを出している

工大祭の最新情報はこちらから。
URL:<http://festival.club.kyutech.ac.jp/>

サークル紹介

サッカー部



サッカー部なのに…
なぜカバレーボールの試合風景です…???

毎年7月に來訪するドイツ・シュタインバイス大学学生(約50人の産業視察・研修団)とのサッカー交流試合がサッカー部の伝統のひとつとなっています。今年はいよいよ雨天のため、急遽カバレーの試合となりました



交流試合後は毎年パーティーが行われメンバー同士で記念品交換を行っています。今年、シュタインバイス財団日本支部長からドイツチーム及び本学サッカー部に対し、特に記念品の授与がありました

ちわっ！サッカー部です。僕たちは、週5〜6回学内のグラウンドで練習しています。春と秋にそれぞれリーグ戦とインカレがあり、その大会で上位進出ができるように頑張っています。昨秋・今春のインカレと、2大会連続で準優勝に終わりたいへん悔しい思いをしているので、今秋のインカレではぜひ優勝したいところです。春・夏休みには合宿を行い、やはり大会に向けた練習をしています。また、サッカー部は練習に熱心に取り組むだけでなく、大会後などに行う打ち上げの飲み会で、その大会を通して感じたことなどを上下の区別なくみんなで語り合ったり、都合をつけて打ち上げに参加してください。先輩方に、勉強や研究室のことなどを指導していただいたりしています。そのほかにも、年に数回、サッカー部ならではの行事を行っています。上の方々から受け継いできた良き伝統なので、僕たちもしっかりと守っていきたいと思っています。中でも年に1回開かれるOB会では、さまざまな年代の方々とお話ができ、就職の相談なども熱心に聞いていただくなど、たいへん貴重な機会を持つことができています。

毎日、「強く、うまく」なることを目指して頑張っていますが、なによりも「楽しく頑張ること」に徹しています。今後多くの方々のお世話になることと思いますが、引き続きご支援くださるよう、よろしくお願ひします。

お知らせ

平成16年度入学試験日程

平成16年度の学部入学試験日程が、下記のとおり決定しました。

○推薦入学試験

出願期間

平成15年11月4日(火)～11月10日(月)

試験日

平成15年11月27日(木)～11月29日(土)

○帰国子女特別選抜

○社会人特別選抜(工学部夜間主コース)

出願期間

平成15年11月4日(火)～11月10日(月)

試験日

平成15年11月27日(木)

○個別学力試験(前期日程試験)

出願期間

平成16年1月26日(月)～2月4日(水)

試験日

平成16年2月25日(水)

○私費外国人留学生入学試験

出願期間

平成16年1月26日(月)～2月4日(水)

試験日

平成16年2月26日(木)

○個別学力試験(後期日程試験)

出願期間

平成16年1月26日(月)～2月4日(水)

試験日

平成16年3月12日(金)

募集要項配布時期及び請求先

試験の種類	配布開始時期	請求及び問い合わせ先
推薦入学試験 帰国子女特別選抜 社会人特別選抜	9月中旬	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1 学務部入試課入学試験係
個別学力試験 私費外国人留学生 入学試験	11月上旬	TEL093-884-3056

※備考

郵送を希望される場合は、本人の郵便番号、住所、氏名を明記し、390円切手(ただし、個別学力検査は580円切手)を貼付した返信用封筒(角2号、24cm×33.2cm)を同封の上、封筒の表に「試験の種類、志望学部名(工学部は、昼間・夜間主の別も)、募集要項請求」を朱書きして請求してください。

21世紀COEプログラムに採択されました

平成15年度「21世紀COE(卓越した研究拠点)プログラム」を文部科学省に申請していましたが、学際・複合・新領域分野において、生命体工学研究科脳情報専攻・山川烈教授を拠点リーダーとするプロジェクト「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」が採択されました。

このプロジェクトは、新しい学問領域である「脳情報工学」の基盤技術の確立と、視野の広い高度専門家の育成を目的として、5年間で世界随一の研究拠点を形成します。



ブレイン・インフォマティクス 脳型情報処理 人間観和 環境適応・協調
プロジェクト概念図

地域貢献特別支援事業費に採択されました

本学から、平成15～16年度における地域貢献特別支援事業計画を文部科学省に申請していましたが、平成14年度に引き続き採択されました。

今年度実施の事業につきましては、平成14年度よりもさらに内容を拡充し、全体では7カテゴリーとその中に属する10事業で「躍動感に溢れた特色あるまちづくり」への貢

献を目指し、実施いたします。



九州工業大学公式ホームページ(英語版)をリニューアル

このたび九州工業大学公式ホームページ(英語版)をリニューアルいたしました。

リニューアル版は、トップページを入学希望者と学術研究に分類し、大学の内容がすぐわかるようになっています。

今年の4月に日本語版、7月に研究者紹介をそれぞれ充実していますので、今回の英語版で、本学ホームページのリニューアルは完成いたしました。

今後も最新の学内情報をホームページで発信していきます。

九州工業大学公式ホームページ:
<http://www.kyutech.ac.jp>



九工大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

●宛先●

九州工業大学総務課企画・広報係
 〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
 TEL:(093) 884-3007 FAX:(093) 884-3015
 メールアドレス:sou-kikaku@jimu.kyutech.ac.jp